

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
芸術科	書道Ⅰ	2	選択	共通	1

教科書（発行所）	書道Ⅰ（教育出版）
教科書以外の教材	

目 標		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。			
	学期	学習事項	学習内容	考查等	
学習計画	1 学期	オリエンテーション 書写から書道へ 楷書の学習 篆刻の学習	書写と書道の違いは何か。用具の種類や扱い方、専門用語について学ぶ。 楷書の基本点画を復習する。また、「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」などの楷書の古典から、書風の違いと用筆・運筆の特徴を学ぶ。 篆刻の歴史や種類を学ぶとともに、その役割と芸術性を考える。石に自分の姓名印を刻す。	作品 作品 ファイル提出	
	2 学期	行書の学習 草書の学習 硬筆の学習 隸書の学習 篆書の学習 生活の中の書	「蘭亭序」の鑑賞と臨書を通して、行書の成立とその特徴を学ぶ。 「真草千字文」の鑑賞と臨書を通して、緩急や筆圧の強弱などによる表現効果を学ぶ。 履歴書や金封など、生活の中で活用できる基本的な書き方を学ぶ。ボールペンに慣れるとともに、学んだ書体を生かして硬筆展に出品する作品を制作する。 身の回りの隸書と効果について考えるとともに、「曹全碑」の鑑賞と臨書を通して隸書の特徴を表現する。 最も古い書体である篆書の種類と漢字の変遷を学ぶ。「泰山刻石」の鑑賞と臨書を通して、篆書の用筆・運筆の特徴を表現する。 年賀状のマナーと書き方を学び、筆を生かした年賀状を制作する。	作品 作品 作品 作品 作品 作品 ファイル提出	
	3 学期	仮名の書の学習 漢字仮名交じりの書の学習 まとめ	漢字をもとに日本で誕生した仮名について、その成立過程と特徴を学ぶ。平仮名・変体仮名・連綿の用筆・運筆を表現する。平安時代の名筆から紙面構成の特徴と効果を捉え、自身の表現に生かす。 これまでの学習で学んだ書を構成する要素について振り返り、漢字と仮名を調和させた表現を学ぶ。言葉の意味やイメージに合う表現を考え、意図や工夫を感じ取りながら互いの作品について話し合う。 1年間の活動を通して自身の取り組みや成長を振り返り、書の魅力とは何か考えてみよう。	作品 作品 ファイル提出	
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等		1 移動教室のため、時間に余裕を持って行動し、教科書や用具をそろえて席に着きましょう。 2 用具は大切に扱い、常に整理整頓心がけましょう。 3 プリントは板書をそのまま写すだけでなく、説明をよく聞いてメモしたり、自身の考えや気づきを書き込んだりする習慣をつけましょう。 4 作品の制作過程や鑑賞活動も評価の対象です。互いにアドバイスをするなど、粘り強く作品を書き上げる姿勢をもって取り組みましょう。			

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	漢字の書体の変遷や仮名の成立などの基礎知識、用具・用材の特徴と表現効果の関わりを理解している。 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質・字形や構成を生かした書表現の技能を身に付けている。	古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形や全体の構成を生かし、意図に基づいた表現の構想を工夫している。 書の伝統と文化、生活や社会における書の効用とその根拠について考え、書のよさを味わって捉えている。	主体的に書の表現と鑑賞の幅広い活動に取り組む態度、書のよさや効用を捉え、自己表現に生かそうとする態度、制作の過程を振り返って評価・改善しながら粘り強く取り組む態度を身につけている。
評価の方法	定期考査は行わず、次の4点をふまえて総合的に評価します。 1 出席・学習活動への参加状況（主体的に学習に参加し、粘り強く取り組んでいるか。） 2 作品（書体や書風の特徴を捉えて表現出来ているか。用具・用材や字形、構成などを工夫し、意図に基づいた表現が出来ているか。） 3 プリント（自身の考えや気づきが書かれているか。制作過程や改善点、自己評価など学びの過程が分かる内容となっているか。） 4 そ の 他（道具を大切に扱っているか。教室や棚の整理整頓が出来ているか。）		